

アーティスト・ステートメント

人間は普段、いろいろな物を無意識にを使って生活している。
人間が特に意識せずに物を使うことができるのは
物に対して知覚的な記憶(経験)を蓄積しているからだと考えられる。

また人間は身体の行動においても無意識に行っていることが多くある。
朝起きてから家を出て帰って眠るまで、または眠る事も含めて、
人間は全ての行動を自らの意識でコントロールしている訳ではない。

記憶するという人間に備わった機能を巧みに使って、
日々の生活に登場する物や行動を記号化して私たちは生活している。
おそらく、全てを考えて行動するというのは極度の負担であり
その負担を回避して過ごせるように。

写真や絵画あるいは空間的に改めて表現として
切り取られ提示されたとき物や行動は記号化から解除される。
「そこに人間は何を思うのか」
これが私の興味であり、制作への動機となっている。

NUKEGATA #5

2022

素材:映像 アクリル製スクリーン プロジェクター 写真

コンセプト

この作品は、一日の終わりに今日着ていた服を脱ぎ、写真に収めるという作品です。
服を脱ぐという日常的な行為を、人は無造作に行いそこに意味を問うことはありません。
しかし私は、この些細なルーティンの結果乱雑に脱ぎ捨てられた衣服に対して、まるで
脱皮した生き物の抜け殻のような悲しさを覚えるとともに、自身が存在していたことを証
明する痕跡のような温かみを感じます。

今作品では、痕跡ではなく、服を脱ぐという行為に着目しました。
服を脱ぎ捨てるという行為を過去の自分を捨て去り、新しい自分に生まれ変わる一種の
儀式のような行為と捉え作品化したものです。

そこには、誰もが体験したことのある服を脱ぐという光景があり、「進化する瞬間」がそこ
にあると信じたい。